

令和 2 年度

美咲町教育委員会事務の点検・評価に関する報告書

(令和元年度事業対象)

令和 2 年 1 2 月

美咲町教育委員会

目 次

I	はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・	1
1	点検評価の趣旨	
2	点検評価の対象及び方法	
II	教育委員会の組織及び活動・・・・・・・・	1
1	教育委員会の委員	
2	審議案件	
3	研修会等	
4	学校訪問	
5	会議の運営等	
III	教育委員会が管理執行する事務・・・・・・・・	3
1	基本的・総務的事務	
2	人的管理に属する事務	
IV	主要事業の点検評価・・・・・・・・	4
	■学びプラン	
	■つながりプラン	
	■夢育みプラン	
V	おわりに・・・・・・・・	14
○	学識経験者による意見・・・・・・・・	15

I はじめに

1 点検評価の趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という）の一部改正により、平成20年4月から全ての教育委員会は毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し議会に提出するとともに公表しなければならないこととなった。

本報告書は、地教行法第26条の規定に基づき点検及び評価を行い、その概括を報告するものである。

2 点検評価の対象及び方法

(1) 対象

令和元年度の教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況

(2) 報告

本報告 令和2年12月議会にて報告

(3) 方法

「方策」は美咲町教育振興の重点施策に掲げている主な取組

「取組の概要」は方策に係る具体的な取組内容や状況を記載

「成果と課題」は実施した取組の成果と課題を記載

「評価」は達成度についての内部評価を記載

A 十分な成果を得た

B 概ね成果を得た

C 成果もあったが、改善が必要

D 満足の得られる成果が見られず、事業の見直しが必要

E 事業の中止、廃止

(4) 学識経験者からの評価

地教行法第26条第2項の規定に基づき、次の者に助言及び意見を受けた。

美作大学生生活科学部 特任准教授 佐々木 勇 氏

(5) 公表

町公式HPでの閲覧

II 教育委員会の組織及び活動

1 教育委員会の教育長及び教育委員

職 名	氏 名	性別	任 期
教 育 長	黒瀬 堅志	男	H31. 4. 1 ~ R4. 3. 31
教育長職務代理者	西村 昌計	男	H28. 5. 14 ~ R2. 5. 13
委 員	寒竹 美穂	女	H28. 5. 14 ~ R2. 5. 13
委 員	芝原 秀法	男	H29. 5. 14 ~ R3. 5. 13
委 員	池上 涼子	女	H30. 5. 14 ~ R4. 5. 13

2 審議案件

開催日	主な議決・報告等事項
4月16日	平成31年度教育委員会事務局の人事・事務分掌等
5月22日	美咲町教育振興基本計画（令和元年度方策）、補正予算
6月18日	議会一般質問、中学校生徒海外短期留学事業、子ども議会
7月22日	岡山県学力・学習状況調査の結果概要、運動会・高校野球の日程等
8月26日	R2小学校教科用図書採択、全国学テ・決算事務報告等
9月18日	議会一般質問、補正予算の報告、小中一貫教育の設置等
10月21日	柵原地域義務教育学校の新設 学区外就学の承認
11月13日	柵原地域義務教育学校の新設 学校訪問の日程等
12月20日	教育支援委員会判定結果、学校職員服務規程の改正、補正予算等
1月23日	小中一貫教育校の指定、小・中学校卒業式の挙行、成人式の報告等
2月18日	R2当初予算、小・中学校入学式の挙行、学区外就学の承認等
3月16日	R2教育課程編成表、教職員人事、議会一般質問、補正予算

3 研修会等

開催日	研修会等
6月20日	美作地区市町村教育委員会連絡協議会研修会（津山市勝北公民館）
7月17日	岡山県市町村教育委員会連絡協議会総会（くらしき健康福祉プラザ）
11月7日	岡山県市町村教育委員会委員研修会（ピュアリティまきび）
11月20日	美作地区市町村教育委員会連絡協議会秋季研修会（美咲町）

4 学校訪問

開催日	学 校
11月13日	旭小学校、旭中学校
11月18日	加美小学校、美咲中央小学校、中央中学校
11月22日	柵原東小学校、柵原中学校、柵原西小学校

5 会議の運営等

教育委員会は、定例会を毎月1回開催した。事務局員として教育総務課長、生涯学習課長、必要に応じて指導主事等を加えて開催した。会議は毎回、十分な時間を掛けて審議及び協議を行った。内容としては、教育行政の重点目標及び施策、人事、施設管理、予算決算事務、就学、教育振興基本計画、人権教育基本方針、教育課程、学校の様子、学力状況等、多くの議題が検討された。

教育委員は、県の研修会等に参加して識見の向上に努めている。また、町内小中学校を訪問し、教育活動の参観を行うことで、現状の把握をしたり、取組の成果や課題を協議したりしている。

地域の実情に応じて、住民の意向を施策に反映することについては、学校教育及び生涯学習の両面で工夫や努力が今後一層求められる。

Ⅲ 教育委員会が管理執行する事務

1 基本的・総務的事務

教育行政重点施策の策定等、基本方針の多くは、事務局が原案や資料を提出し、教育委員会として協議や審議を行っている。しかし、具体的な施策としてどのように反映させるか等、十分に審議を深められていないものもある。平成24年度から、美咲町教育振興基本計画をもとに、年度ごとに重点方策を設けて推進してきた。そして、第1次計画の成果と課題を踏まえ、平成29年度より、第2次美咲町教育振興基本計画（H29～H33）に基づいて教育行政を推進している。

規則等の制定・改正については、機会に応じて教育委員会で審議し、適切に行っている。さらに、地方教育行政の組織及び運営に関する法律改正等に伴い、必要と考えられる規則等は積極的に制定・改正を行っている。

施設設備面においては、町内学校施設の中には、建築後30年から40年以上も経過し、老朽化が進んでいる施設がある。今後、そのような施設の維持管理については緊急を要するものから優先的に点検し、修繕及び改修を行っていく。

また、平成28年度、柵原地域の学校について、今後の在り方を検討する「柵原地域学校建設検討委員会」を設置し、協議を行ってきた。その結果、9年間を見通した小中一貫教育を行う義務教育学校の創設が望ましいとの報告書が町長に提出された。そして平成29年度に「柵原地域義務教育学校整備検討委員会」を設置し、義務教育学校の創設に向けて協議を重ね、地域・保護者に説明会を開き、議会とも協議をしながら検討を行ってきた。令和元年10月に答申書が町長に提出され、総合教育会議で協議をし、教育委員会で議決をいただき、令和6年度開校を目指し、柵原地域に義務教育学校を新設します。また、令和元年1月に、美咲町立全小中学校を小中一貫教育校に指定し、義務教育期間9年間に一貫性のある教育を研究・展開をしていくことにした。

2 人的管理に属する事務

町立小・中学校教員の県費教職員の人事については、津山教育事務所と連携を図りながら、喫緊の課題である学力向上や問題行動の解決に向けた学校組織の強化を行っている。また、個々の教職員の指導力向上を図るために、校内における研修や校外における研修等、多方面にわたって研修が行われている。学校運営に関しては、各校と連携を図りながら、必要に応じて支援を行うことと、学校長に対して、必要な連絡、指導助言等を行っている。また、教職員の多忙化への対応として、ワークスタイルプランの策定や音声ガイダンス付き電話対応など働き方改革の環境づくりが大きく進展した。

特別支援教育については、教育支援委員会の判定状況から、特別な支援を要する児童・生徒の増加が見込まれ、特別支援教育を充実させるための体制づくりが必要である。県費負担教員の配置基準による教員数だけでは指導が困難な場合、学校運営を円滑に行うために町費による教育支援員の配置・負担を行っている。

また、事務局職員の研修については、県教育委員会や町長部局主催の研修に参加し、研鑽を深めている。

Ⅳ 主要事業の点検評価

■美咲町教育推進の体系



■学びプラン

1 学力向上

目標：確かな学力を身につけるとともに、豊かな心や人権感覚の育成、体力・健康づくりを図る。

方策	取組の概要	成果と課題	評価
授業改善 の働きか け	○岡山型学習指導のスタンダードに基づく授業改善 ・授業の目標やねらいを明確にして児童生徒の実態に応じた展開を行う授業 ・思考力・判断力・表現力の育成として、学び合いや教え合いのある授業と書く活動の充実を図る。 ○美咲町学力向上推進連絡協議会の開催 ・各校学力向上プラン作成し、年3回でPDCAサイクルで改善。 ・美咲町標準学力調査の実施 1年間の取組の総括 ○基礎基本の定着 ・美咲町統一テスト（小学校）の実施 ・補充学習（中学校）の実施 ○美咲町教育研究会の活性化と全員研修会の充実 □全国学力調査結果（標準スコア） 小6 国語+0.6p 算数+0.3p 中3 国語+0.8p 数学0p 英語-2.6p □授業改善 美咲町生活学力アンケート 小 内容がわかる国語89.5%算数83.2% 目標表示83.6% 振り返り75.1% 話し合う活動 78.6% 説明や文章を書く活動 小40.8% 中 内容がわかる国語90.2%数学77.8% 英語77.9% 目標表示94.2% 振り返り81.7% 話し合う活動 85.3% 説明や文章を書く活動 中31.8% □美咲町統一テスト（漢字・計算） 6月漢字94.7%計算91% 2月漢字91.5%計算85%	○全国学力調査結果から、国語については全国平均を上回り、好結果が出ている。算数・数学も昨年度より全国平均に近づいた。 ○美咲町生活学力アンケートから、授業改善について、小学校・中学校では、児童の学習肯定率が高く、目標、振り返りの数値が安定した。さらに授業改善の目標数値に対話的な学習が設定できた。特に中学校では、英語のわかるの肯定率が全国学調より13.9%伸びた。 △経年変化で見ると国語、算数・数学ともに、伸びている。しかしながら、学年差が大きい。国語が高い傾向にあり、算数・数学・理科に課題がある。 △自分の考えを書くの肯定率が低い。 ○美咲町学力向上推進連絡協議会で、各校学力向上プラン作成し、年3回でPDCAサイクルで改善できた。 ○美咲町統一テストでは95%の達成率には届かなかったが、主体的な学習姿勢の育成方法が各校の取組で見られた。、昨年より正答率が少し上がった。 中学校では、小テストなどの補充学習の取組で、不合格者には合格するまででいい取り組みをした。 △できるだけ研究会と研修会を開催したが、県の重点取組を研修するにとどまった。	B
落ち着いた 学校生活	○生徒指導調査を毎月行い、各校の状況把握と課題の早期対応・支援を図る。 ○学級集団の状態を客観的に把握するI-checkの活用を通して、集団全体や個々	○毎月各学校から生徒指導に関する調査の報告があり、課題に応じた対応を行っている。 ○I-checkを年2回、4年生以上を実施し	

	の状況に目を向け、落ち着いた学級をつくる。 ○SCやSSWを活用し、長期欠席・不登校の児童生徒数を減少させる。 ○30年度出現数は、 ・長欠（小：8人、中11人） ・不登校（小：4人、中：7人） ・いじめ（小：5人、中：2人） ・暴力行為（小：2人、中：5人） R1年度は、30年度を下回ることを目標とする。	た。小学校では、学年が上がるしたがって安定がみられる。中学校は学年により課題が異なる。1年：友達の支えが弱い 2年：学級の規範意識が弱い 3年：いじめのサインがある ○R1年度 問題行動調査結果について、1月末時点での集計は *不登校 小：6人、14人 *いじめ認知小：4件 中：4件 *暴力事案 小：6件、中：1件 ○不登校に関しては、児童館等を利用して家から出ることができるよう配慮した事業を試行的に実施した。 ○暴力事案は、感情の自己規制ができない児童による事例。	B
家庭学習の習慣形成	○継続的に家庭学習の支援を行う。 ・家庭学習のスタンダードを活用した家庭学習の習慣づくり ・自主学習の励行 ・定期考査期間中の家庭学習・生活ふり返し強化週間の設定 ・土曜日の教育支援事業、 □美咲町生活学習アンケート（2月） 家庭学習（全国比） 小 平日1h以上 77.9%（+11%） 休日1h以上 45.8% 中 平日1h以上 69.6%（-0.2%） 休日1h以上 72.6%	○家庭学習では、地域ごとに、小中連携が図れ、各校での様々な取組が見られ、数値が安定してきた。平日が安定してきたことで、休日についても取組を広げられる。 △ゲーム・スマホ等の使用時間との関連あり、今以上の数値の向上は、児童・生徒への意識向上の取組と保護者への啓発が課題である。 小学校 休日の家庭学習が課題。 中学校 平日の家庭学習が課題。	B
成果と課題	○児童生徒の実態に沿った学力改善プランが作成され、PDCAサイクルが確立され、授業改善が進んできた。学習状況調査結果の数値は高いが、学力調査結果は高くない。自分の考えを表現する書く活動が低いので、自分の考えを持って主体的に取り組めるような質の高い授業改善が必要である。家庭学習1hも安定した数値となったが、これ以上の伸びについては、家庭への啓発取組の強化が必要である。 ○長期欠席児童生徒が増加傾向にあり、新たな不登校を生まない取組として、個々の児童生徒理解に努め、居場所のある温かい学級集団づくりや家庭との連携を密にした教育活動を行う必要がある。また、I-check結果等を活用して、児童生徒の心理状況を把握し、気になる児童生徒には具体的な手立てを打つことや、きざしや兆候が見られた際には、早期対応を行う必要がある。		B

2 健全育成

目標：子どもたちの健全育成のため家庭教育の支援を充実させる。

方策	取組の概要	成果と課題	評価
あいさつ運動の推進	○あいさつ運動を推進する。 ・各校の運動に参加し、取組の支援をする。 ・児童生徒会が主体になったあいさつ運動の実施。 ・学校・家庭・地域が連携したあいさつ運動の実施。	○3回実施しようとしたがコロナの影響もあり2回しか実施できなかった。 ○学校や児童生徒会、地域と連携したあいさつ運動を実施した。	C
生活リズム向上運動	○子ども、保護者と連携し、年間に2回以上、朝ごはんや睡眠時間の充実強化週間に取り組む。 ○保護者への基本的な生活習慣の啓発を行う。 ○週や月目標を立て、生活目標を立てる。 ○学校、園を通して、「ぱっちりモグモグ運動」に取り組む。 □美咲町生活学習アンケート 平日睡眠8h以上 小70% 中31.9%	○生活リズム向上の指導は学期に1度以上、強化週間を設け、基本的な生活習慣の充実に取り組んだ。 ○懇談会や学校通信などを通じ、基本的な生活習慣の大切さの啓発を行った。 ○児童の実態に即し、各校で週、月目標を立て、各学級や全校での振り返りを行うことができた。	C
スマホ等の対策の推進	○SNSの利用について家庭でのルール作り、学校での点検。 ○子ども、保護者と連携し、年間に2回以上、メディアコントロールの強化週間に取り組む。 ○保護者へのメディアコントロールの啓発を行う。 □美咲町生活学習アンケート（2月） 小456年中123年（4月比） スマホ等1h以上小45.7%（+21.4%） 中52.5%（+3.9%） メディア1h以上小72.4%（-2.3%） 中74.6%（-4.2%） ゲーム1h以上 小55.2%（-3.2%） 中60.7%（-7.2%）	○定期考査期間中等にメディア（スマホ、テレビ、ゲーム等）にかかわる時間のチェック等、家庭と連携した取組を行い、その振り返りを学校通信などに掲載し、保護者の啓発ができた。 ○懇談会や学校通信などを通じ、メディアコントロールの大切さの啓発を行った。 △メディアとゲームについては、成果が見られているが、スマホ等の使用率が各校の取組にも関わらず、伸びている。保護者へのより一層の啓発が必要である。	B
人権教育の推進	○保小中人権啓発活動 ○児童生徒に人権標語・人権ポスターを募集し、各校で取り組みを行う。 ・リーフレット・クリアファイルの作成	○保育園・小中学校において、児童生徒、保護者、教職員、地域住民を対象とした講演会・研修会の開催により、広く啓発を行った。 ○町内小中学校から募集した、人権標語・人権ポスターにより、リーフレットを作成し、町内全戸配布した。	B

	○人権教育推進協議会委員の研修 ○地域対象の講演会	また小中学生には、クリアファイルを配布し啓発を図った。 ○「自立をめざした寄り添い支援」「心に声を込めて」と題して研修会を実施し、障がい者の人権と支援の実践について学んだ。 ○「守ろう！こどもの心～まずは大人の心から～」をテーマに講演会を実施した。66名の参加があり、児童虐待についての理解を深めた。	
成果と課題	○子どもたちの生活リズム向上にスマホを始めとするメディアコントロールが不可欠になっている。強化週間中はしっかりと取り組んでいるが、日常からの取り組みにまだまだなっていない。特に家庭への啓発の強化が必要である。 ○小中学生の応募によるポスター、標語によるチラシやクリアファイルの作成は定着している。 学校の取組について地域に広報・ホームページ等で、PRしていくことが必要である。また、今後は人権啓発活動の一環として、引き続きセクシャルマイノリティ等多様な事柄に対して正しい認識を持てるよう偏見や差別意識を助長しないような環境づくりを模索していく必要がある。		C

3 読書推進

目標：町民の読書活動の促進と子どもたちの読書に親しむ習慣を身につける。

方策	取組の概要	成果と課題	評価
就学前児童の読書推進	○3か月検診時にブックスタート、3歳6か月検診時にブックスタートセカンドとして絵本を配布。	○乳幼児検診時（対象者89名）、3歳6か月検診時（対象者102名）に本の配布と、図書館司書・読書ボランティアの方による読み聞かせによる読書推進の啓発や絵本の紹介。	A
読書に親しむ環境づくり	○学校の読書活動支援を行う。 ○朝昼時間の読書、本の紹介を継続実施 ○図書館司書が定期的に学校訪問し環境を整える。 ○ニーズに基づいたボランティアの活用と支援活動の一層の充実を図る。司書・ボランティアによる絵本の読み聞かせ活動で内容を広げ、深めていく。	○図書館司書の週1回の図書室在室により、図書室が利用しやすくなった。また、ボランティアの方による読み聞かせや朝読書が行われている。 ○学校や子どものニーズに合わせた図書の整備が必要。 ○みさきっず（図書学校受け渡しサービス）の利用促進。 ○平日の読書時間30分以上 R1 全国学習状況調査結果 小6 28.4%（全国比-11.4%） 中3 31.2%（全国比+4.2%）	B
読書に関する人材育成・研修	○図書館での一層の取組を推進する。 ○活用率向上に向けた研修、館内レイアウトを始め実務的指導を受ける。 ○県立図書館等の各種研修会参加や近隣	○毎月、3館の図書館司書が集まり、連絡会を開催して情報交換も行っている。また、研修への参加も増加している。	B

	図書館との交流を図る。	○イベントの実施 中央図書館 27回 499人 旭図書館 26回 363人 柵原図書館 14回 418人	
成果と課題	○読書推進は学校と各図書館の連携が進んでいる。さらに、図書館利用のきっかけ作りとしてPRも含め、みさきっず（図書学校受け渡しサービス）の案内を再度行った。 ○県内図書館ネットワークにより、探している本がない場合、他館から取り寄せることが可能など利用サービスの周知がさらに必要である。		B

■つながりプラン

4 学校支援

目標：学校、家庭、地域のつながりを広げる。

方策	取組の概要	成果と課題	評価
みさきスタイルこども 応援事業の 効果的な推進 (おかやま 子ども応援 事業)	○地域学校協働活動事業	○活動日数/年 ボランティア延べ人数/年 加美小学校 271日 延3,090人 美咲中央小学校 278日 " 1,300人 旭小学校 88日 " 213人 柵原西小学校 199日 " 429人 柵原東小学校 195日 " 453人 中央中学校 313日 " 572人 旭中学校 30日 " 77人	A
	○放課後子ども教室事業	○活動日数/年 平均参加児童数/回 寺子屋ちゅうおう 93日 平均 5人 キッズトライアングル 55日 " 30人 寺子屋あさひ 97日 " 12人 寺子屋やなはらにし 89日 " 25人 寺子屋やなはらひがし 47日 " 12人	
	○土曜日教育支援事業	○開催回数/年 平均参加児童数/回 のびのびサデー 10回 平均 15人 ホデーわくわく 22回 平均 12人	
	○家庭教育支援事業	○活動内容（子育て支援） 「親育ち応援学習プログラム」の活用	
	○上記事業の運営委員会の開催及びスタッフ研修会の開催	○参加人数 第1回運営委員会(7/18) 20人 合同コーディネート会議(7/31) 38人 地域学校連携研修(12/13) 28人	

成果と課題	○地域学校協働活動により、地域の支援ボランティアは郷土愛や生きがいづくりの構築、子どもたちは地域のことや地域の人を知るきっかけになり、地域力を強いものにしている。 ○各事業ともスタッフが減少傾向にあり、利用者から支援者への支援の循環や新たな支援員等の協力体制が課題となっている。保護者も企画段階から積極的な関わりをもっている。保護者の更なる積極的な運営への参加を促したい。	A
-------	--	---

5 地域学習

目標：地域での子どもから大人までの交流の機会を広げる。

方策	取組の概要	成果と課題	評価
地域に愛着をもった子どもの育成	○中高生が活躍おかやま創生を支える人づくり推進事業（県委託事業）の実施	○[美咲郷土かるた広め隊事業] 「美咲郷土かるた」を通じて地域の資源や魅力を理解し、その伝道師になることで、様々な体験を通じて郷土への愛着を育み、地域に定着する人材の育成を目的とする。 企画会議3日、ワークショップ4日、施設訪問1日、動画撮影1日、動画編集1日、事業評価2日 「かるたマイスター認定」高校生1人 中央中1人 柵原中2人 津山中1人 「アンケート調査」 ・地域の良さや魅力を知っている ・地域を良くしようとする ・将来、地域に住みたい 以上の項目で地域に関する意識が大きく改善している。	A
副読本「わたしたちの美咲町」の活用や地域学習のための地域ボランティアの活用	○授業を通して郷土を愛する心を育む活動を行う。 ・副読本「私たちの美咲町」の活用により、地域の特色を知り、地域とのつながりを深める。 ・地域人材をボランティアとして広く求め、有効な活用を図る。 ・美咲町への転入教職員の町内巡りを行い、教育活動に活かす。	○3年生の学習を中心に、副読本による郷土学習を進め、地域見学等も行っている。 ○ぶどう、梨、稲作等、地域の農業を体験できる学習を、複数の学年で計画し、卒業までに地域学習の体験を広める工夫がなされている。 ○美咲町教育研究会主催の研修会「町内巡り」は、町への転入職員を中心に定例化しており、町内探索の良い機会となっている。	A
文化財の活用や充実	○文化財の保存・活用を積極的に行う。 ○町内の観光名所に文化財マップを配布し、美咲町に所在する文化財を広めていく。 ○老朽化していた本山寺霊廟の保存修理	○文化財保護委員会、文化財研究会とも定期的に会議を開催し、指定文化財の保護・保存に尽力している。 ○岸田吟香記念館、月の輪古墳への来場者は多く、来館者への説明ボランティアの後継者養成は今後も続けていく。	B

	事業を行うことにより、貴重な文化遺産を後世に伝える。	○文化財マップを町内の要所に設置し、広く町内外の方へのPRを行った。 ○本山寺霊廟の屋根の吹替等保存修理工事(R1～4予定)により、重要文化財の保護に努めた。	
成果と課題	○中高生が活躍！おかやま創生を支える人づくり事業では、参加後のアンケートで、かるたに掲載している地域の魅力への興味や、地域の活性化を図りたい等、中高生の心境に、地元に対する愛着が育っている結果が出ている。 ○みさきスタイルこども応援事業として町の効果的な推進等への取組(土曜日教育支援事業)により、小中学生に対する伝統文化・芸能等の伝承について、地域のボランティアによる協力を得て学習プログラムとして一定の成果が見られた。地域の交流・活性化には若い世代の積極的な参加がこれからも必要であり、「中学生だっぴ」などのような自主的に地域の大人と交流し働き方や生き方など話合うカリキュラムが必要である。		A

6 住民交流

目標：文化・スポーツ活動を振興し、地域住民の交流を深める。

方策	取組の概要	成果と課題	評価
地域行事やスポーツ活動の活性化	○生涯学習の一つと考え、講座等を企画する中で、若者と高齢者が交流できる場として地区文化祭への出展、グラウンドゴルフ交流等、日頃の学習の成果の発表ができる場を設ける。 ○旭地域において三世代で地域行事に参加し、他世代からの学びを得る。	○各地域の文化祭は例年どおりに開催され、地元地域の保育園・学校からも数多くの出品が見られた。カラオケ大会や芸能発表会も複数回開催され盛況だった。 ○三世代交流事業では、地域でのイベントを通じて一緒に活動することにより、他世代の交流を深め、地域に愛着を持つことができた。	B
成果と課題	○各地域で開催される文化祭、イベント等に、小中学生等の積極的な出展が見られる。地域との交流につながっており期待されている。一つの教室やイベントを通じて多くの大事なことを学んでおり、取り組み方を工夫することで今後の全町的な事業としての展開が期待できる。		B

■夢育みプラン

7 夢育て支援

目標：子どもたちの夢を育み、目標を持った生活ができるようにする。

方策	取組の概要	成果と課題	評価
国際理解教育の推進	○英語専科との情報交換 ○ALTの配置事業 (各地域3人全小学校週1回全中学校週2回) ○保育園英語指導員派遣事業	○OALT配置事業について、子どもの実態に合わせた学習ができているとの管理職からの内部評価が多い。 ○7/26～8/7(13日間)、ニュージーランドに中学生11名の短期派遣	A

	(全保育園4・5歳児クラス2週1回) ○イングリッシュキャンプ ○美咲町中学生生徒海外短期派遣留学事業の実施。	留学を行い、異文化や英語に触れる体験を実施した。9/24に報告会の実施。参加者アンケートの肯定的な回答結果から、本事業へのニーズの高さがうかがえた。	
キャリア教育の充実	○将来の夢をもち、勤労を重んじ目標に向かって努力する態度を育成するために、全体指導計画や年間指導計画を作成する。 ○小学校・・・教育課程に位置づけ、担当を置き、計画的に実施する。 中学校・・・1年時に職業調べ、2年時に職場体験学習、3年時に進路についての学習を実施し、段階的に自分の進路についての意識を高める。 ○職場体験学習では、働く厳しさと充実感を獲得し、今後の自己の課題がつかめるようにする。 ○「将来の夢や目標を持っている」子どもの育成。 R1 全国学習状況調査結果 小6 82.4% (全国 83.8%) 中3 77.4% (全国 70.5%)	○全小学校にキャリア教育の担当者を設け、全体指導計画をもとに推進した。 ○R2年度実施のキャリアパスポートの共通理解を図った。 ○職場体験学習は5日間実施し、成果発表会を行った。 ○「将来の夢や目標をもっているか。」小学校は全国平均をやや下回り、中学校は上回っている。	B
将来の夢を育む活動	○週や月目標を立て、生活目標を立て、目標を達成することで、自己有用感を高める。 ○現在活躍している人物や郷土の偉人の話を聞く機会を通して、将来の夢を育てていく。 □美咲町生活学習アンケート (2月) 小4 5 6年中1 2 3年 (4月比) 将来の夢や目標を持っている 小82.4% (-1.4%) 中77.4% (+6.9%)	○週目標を意識した生活ができており、帰りの会や朝礼などで振り返りを行い、自己評価させる活動を行っている。 ○総合的な学習や社会科などの授業等で、地域の方やゲストティーチャーの講話を聴いたり、専門家の指導を受けたりした。	B
成果と課題	○子どもたちの夢を育むために、多様な他者とのかわりや様々な体験活動等を通して、コミュニケーション能力を育んだり、グローバル社会に向けた地域や社会に目を向けるように視野を広げたり、好奇心や生活意欲を高めたりすることに取組めた。 ○生涯にわたって夢に向かって努力し続けようとする意志力と自己有用感を育てていくことが大切である。キャリア教育の系統的な実施が重要である。 ○子どもたちが本物にふれたり、体験的な活動を通して、あらゆる場面で課題や方法など自己決定を行い、振り返りを行う活動をする必要がある。		B

8 子育て支援

目標：夢の広がる子育てを支援する。

方策	取組の概要	成果と課題	評価
適正な就学 や支援	○家庭教育支援チーム、学校職員等の親 育ち応援プログラムによる保護者のつ ながりづくりの支援	○実施状況（ファシリテーター実績） 保護者PTA関係 12回 219人 職員研修 3回 43人 就学時健診 1回 30人 入学説明会 5回 57人 企業出前講座 2回 14人 ファシリテーター養成 1回 9人	B
安全安心の 子育て環境	○教育環境を整備するとともに、子ども の防災意識を育てる。 ・老朽施設等の改修は安全面を考慮し 随時改修を行い安心安全な教育環境 の維持に努める。 ・防災、防犯、交通やネットモラル等の 安全教育を各関係機関と協力し自分 のこととして捉えられるよう訓練や 講習を行う。 ○小中一貫教育を行う義務教育学校の 創設に向けて、情報収集や先進校視察を 行い、地域の実情に応じた学校整備を進 める。	○学校教育施設について必要な修繕 を随時行い、安全安心な教育環境の 確保に努めた。 ○教職員を対象に兵庫県より震災・学 校支援チームEARTHに来ていただき 災害応急対応研修を行い、防災意識 を高める取り組みを行った。 ○地区・PTA・保育園保護者会を対 象に合計11回の説明会を開催し、義 務教育学校創設方針を決定。その 後、建設予定地を決定し、用地買収 に着手した。合計6校の先進校視察 を行い、義務教育学校整備に向けて 情報収集を行った。	A
子どもの体 験活動	○青少年健全育成事業による地場産業に 学ぼう ○夏休みキッズスクール ○イングリッシュキャンプ	○たまごかけごはんのすべて 体験活動 8/11 小学生4人、一般9人 ・岸田吟香の学習 ・たまごかけごはんの料理と食事 ・美咲ファームの見学 ・学習のまとめ ○実施状況 中央地区2回 旭地区1回 柵原地区2回 5事業 延べ参加者97人 料理教室、写生 ○南和気荘を会場に一泊二日で体験 英語学習を開催 参加者60人	A
成果と課題	○町独自の家庭教育支援の進め方ができるよう工夫しながら取り組んでいる。ま た、学校、PTAや保護者のみならず地域子育て団体、高齢者学級などを対象 として「親育ち応援プログラム」の推進や普及に取り組んでいる。 ○体験活動等は、子どもと夏休みの体験の場として、婦人会を中心に地域の交流 を繋げる取組にもなっている。今後の実施内容について事後のとりまとめとと もに地域等に、より探求できるよう工夫も必要である。		A

9 生きがいづくり

目標：明るく生きがいを持って生活できる環境をつくる。

方策	取組の概要	成果と課題	評価
魅力ある生涯学習講座	○女性と高齢者対象の講座 ＜中央＞ ちゅうおう亀寿大学・マザーズスクール 各14回 ＜旭＞ 旭しあわせ学級・旭きらめき学級 16回・12回 ＜柵原＞ かしの実大学・ふれあい学級 各10回 ○一般対象の講座 ・英会話教室（全10回） 美咲町ALTの派遣 参加者数：16名	○生きがい、教養、趣味活動の講座や、健康の増進、時代に適応した社会感覚や知識を深めることを目的に各地域でそれぞれ趣向を凝らした講座を開催した。 ・高齢者対象（中央・旭3月休講） 中央：13回講座・56名 旭：15回講座・54名 柵原：10回講座・53名 ・女性対象（中央・旭3月休講） 中央：13回講座・21名 旭：11回講座・22名 柵原：10回講座・49名 ○ちゅうおう亀寿大学では、各講座の成果を展示し、1年間の成果発表を行い、翌年度以降の励みとなった。 ○英会話教室は、英語力の向上と異文化理解・異文化交流を深め、学習活動や交流活動等の機会の提供の場として実施しているが、今後は、地域への繋がりや人材育成に向けて翌年度への継続を行う。	A
文化的事業の充実	○「さくらのうた」事業の充実発展 ・10月からの募集開始に向けて、募集方法を更に工夫。 作品集発行。表彰式、展示会の開催。 ○文化・芸術活動の充実発展 ・各地域で行われている文化祭や作品展などが気軽に発表できる場を作る。 ・生きがいを持って活動できるよう社会教育団体の育成を図る。	○町内外の小中学校等への依頼や、町HP、新聞、雑誌等に掲載することにより、1,566点もの多数の応募作品が寄せられた。また今年度は展示会場を拡大し、旭町民センター、柵原図書館、津山市立文化展示ホールで作品展示を行った。 ○郷土資料館や図書館、公民館等の公の施設を利用して文芸・文化等の発表の場を作ることができた。また、天文台などの文化学習施設の利用者は、ほぼ例年並みで推移しており、今後も利用者の定着を図るきっかけ作りについて年間を通じて行うことが重要である。 ○各地域の文化祭は例年どおりに開催された。カラオケ大会や芸能発表会も開催され盛況だった。 ○文化連合会（各地区文化協会）への入会者の勧誘が必要。	A
生涯スポーツ	○各種団体と協力し、スポーツ体験等のイベントを行いスポーツに親しむ場を	○参加者は固定しつつあり、内容の検討や告知放送、みさきタウンTV、	

ツの環境づくり	作る。 ○町民運動会、美咲チャレンジロードレース大会といった全町で行われるイベントを積極的に支援する。 ○スポーツクラブの活動が充実するよう、行政は継続して支援していく。	広報誌等の呼びかけなど、新規参加者の促進が必要である。 ○ワンバウンドふらばーボールバレーやラダーゲッターなどのニュースポーツの継続と促進。 ○グラウンドゴルフ場周辺の環境整備 ○実行委員会主導による町民運動会やロードレース大会が定着している。 「晴れの国岡山」駅伝競走大会への連続出場。 ○総合型地域スポーツクラブとの協働や自立へ向けた取り組み。 ○少子化の影響や各種スポーツクラブに参加する子供が増えている。スポーツ少年団（6団体）の入団者が減少傾向にあり、活動の改善・充実が必要である。	A
成果と課題	○「さくらのうた」を通じた交流人口も年々増加している。町内小中学校9年間は毎年うたを読むので、そのことが郷土愛に繋がっている。 ○魅力ある生涯学習講座の在り方について、定着している高齢者及び女性向けの講座はそれぞれが主体的に取り組むことにより、一定の成果がみられる。今後は今まで参加していなかった方への取組を考える必要があり、現在の受講生を含め多くの方の意見に耳を傾けながら、新たな方向性を見出す必要がある。 ○生涯スポーツについて、各団体主催で行っている活動を、関係機関、学校へ周知する際の窓口となり支援するなど会員数の増加に向け取り組む必要がある。		A

V おわりに

このたび、「教育委員会事務の点検・評価」として地方教育行政の組織及び運営に関する法律改正の背景や趣旨に則り、本町教育委員会の業務の点検及び評価を実施した。本町教育の概要を示す「第二次美咲町教育振興基本計画（平成29年度から平成33年度）」及び「教育要覧」に基づき、各分野の事業活動を評価したものである。

教育行政の業務においては、本町の教育振興における3つのプランの重点施策に沿って、各担当を中心に数値目標をあげ、事業の内部評価を行った。多くの事業に取り組み、どの方策でも一定の成果をあげてきた。特に、つながりプランの学校支援方策、地域学習方策、夢育みプランの子育て支援方策、生きがいづくり方策では、高い成果をあげられた。しかしながら、学びプランの健全育成方策に課題が見られた。学校を中心に取組を充実しようと努力を重ねたが、家庭や地域の教育力の低下やスマホ等の普及率拡大もあり、成果の向上が見られにくい結果となった。方策自体の見直しをする必要性が感じられる。

また、昨年度の外部評価にあったように、これからの教育を考えた方策作りについて、令和2年度より実施される美咲町振興基本計画とのずれやこれからの時代に求められる教育に合わせた方策が第二次美咲町教育振興基本計画にないこと、生涯学習基本計画の策定による体系の見直しがあり、平成33年度までであった第二次美咲町教育振興基本計画終了を1年前倒しし、令和2年度に第三次美咲町教育振興基本計画を策定することとなった。

これまで創り上げてきた本町教育の基盤をもとに、生涯学習基本計画等他の計画との関連を図り、学校教育に絞り込んだ計画を策定する方向である。

